令和４年度　　恵那北小学校だより　　6月20日号

げんきたっ子

あったかい言葉

校長　市川　伸美

梅雨に入り、はっきりしない天気が続きますが、学校では毎日心が晴れる出来事があります。その中で、言葉には不思議な力があると思うことがよくあります。

先日の全校朝会で、スピーチをした子に4年生が質問をしました。スピーチをした子は、一生懸命考えて質問に答えました。すると質問した子は「答えてくれて、ありがとうございました。」と言って座りました。きっと、スピーチをした子は、答えてよかったと思ったことでしょう。

飯地小との遠隔授業　自己紹介をし合い、“Thank you”という言葉で笑顔になりました。

教室で嘔吐してしまった子がいました。その他の子は、別教室で授業を続け、授業のない職員で片付けをしました。放課後、その学級の数人が私の所へ来て、「掃除をしてくれて、ありがとうございました。」とお礼を言ってくれたのです。学級の仲間として、他人事にしないで声をかけてくれたことに感動しました。

どちらも、誰かに言わされたのではなく、自然に出た言葉でした。心がほっこりと温かくなりました。

以前勤めていた学校の保護者から教えていただいた言葉に「5S の子育て」というものがあります。講演会で学ばれたそうですが、その方は、「さすが」「しらなかったよ」「すごい」「センスあるね」「そうだったの」のような、“S” から始まるポジティブな言葉をかける子育てをしたいとおっしゃっていました。逆に、「D」から始まる「だめ」「でも」「どうせ」のようなネガティブな言葉を控えるとよいのだそうです。我が家の「5S」を見つけるのも楽しいと思います。

落ちていた一輪車を進んで片付けてくれた二人。「ありがとう」と言うと、にっこり。

「あったかい言葉かけ県民運動」が岐阜県教育委員会の主催で行われています。ぜひ子供たちと一緒に身の回りにある「あったかい言葉」を見つけていただけたらと思います。そして、あったかい言葉が飛び交う恵那北小学校でありたいと願っています。